授業科目　生理学実習

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	臨床
生駒　俊和、大山　富三	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	45

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			○

【概要・一般目標：GIO】

生理学で学んだ人体の機能の事象を見ることによって恒常性の維持について理解を深める。

【学習目標・行動目標：SBO】

１．正常な循環機能を説明できる。
２．正常な呼吸機能を説明できる。
３．体液・血液の生理機能を説明できる。
４．消化酵素の働きを説明できる。
５．正常な感覚機能を説明できる。
６．運動の正常機能を説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-6	循環機能　血圧、心拍数、心電図	1	講義・実習
7-9	呼吸機能　肺活量の測定	2	講義・実習
10-12	体液の機能　浸透圧・血糖の測定	3	講義・実習
13-15	血液の機能　出血時間・毛細血管抵抗試	3	講義・実習
16-18	消化酵素の作用	4	講義・実習
19-21	感覚機能　表面感覚、刺激強度と感覚強度、聴力の検査	5	講義・実習
22-24	運動機能　表面筋電図の測定	6	講義・実習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	臨床検査学講座 生理学第２版	佐藤　建次、北村　清吉		2004・2,730円
参考書				
その他の資料				配布資料

【評価方法】

レポート（40％）、実技試験（20％）、定期試験（40％）

【履修上の留意点】

生理学で学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。また、実習に相応しい容姿と態度で臨み、積極的に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出することが単位修得の条件である。レポートの提出期限は厳守すること。

生理学実習は他の科目に関する基礎実習を含むため、生理学の参考書としては、図書館にて多くの本を閲覧し、実習内容について知識を深めること。